

# 思いだす風景と出来事

福井市 平山克夫（四ヶ所出身）

退職して四年近ごろ旅行、転勤、出張などで行った各地の風景、行事、出来事が思い出されます。また現在住んでいますが福井市は戦国時代の城下町から歩んできた都市で環境が上越市と似ていますが、ふるさととの風景とその思い出にまざるものはありません。私は小、中、高校と少年時代を上越市で就学し育ちました。その地域、通学途中、校舎の窓から眺めた風景、そこでの出来事が心に残っています。

長い冬が終わりに近づき道路の硬い雪割りをを行い、バスが通れる頃になると杉みき子さんの文で子供の教科書に載っていた、妙高山の「はね馬」、南葉山の「種まきしいさん」などの雪形が見えてきて春が訪れます。春は荒川右岸からの川面と左岸、北城神明社の森、高田城跡の桜、背景の山々、これらの春霞の風景は中学時

代に写生をした思い出で深い風景のひとつです。写生を早めに終了し荒川で泳いでYさんに「死んだらどうするのですか？」と厳しい注意を受けた記憶があります。



明治村に高田より移設された「小熊写真館」

それぞれの地域から見えた妙高、火打山、米山の姿と山並みは印象に残りますが特に頸城平野に裾野を広げる妙高山の峻線は富士山のそれよりも美しいと私は思っています。最近でも妙高山の姿を高田公園の桜、蓮とともに写生、写真撮影で楽しんでます。

夏は近くの用水路、荒川での水泳、谷浜海岸での林海学校、笹ヶ峰牧場でのキャンプ、妙高、火打山への登山、キャンプ場では夜中に空き瓶が飛んできました。昼間は今では吸えないような美味しい空気が存分吸えましたが、つらい外輪山の登山コースでした。いなごとりとその佃煮の給食も思い出です。

秋には落穂拾いとその給食、またモクズガニつりと鮭つりは現在行方はいないのではないのでしょうか？暗闇で青蛙をえさにポチャン、ポチャンと音を発てるとガボツ、ガボガボと鮭が洞から出てきて食いつく、稲刈り休みを利用しての面白い遊びでした。

冬の遊びは雪合戦か相撲をして日本で最初にスキーを始めたと担任から教わった連隊跡地、金谷山か近所の庭へ侵入してのスキーでした。猛吹雪の日の通学や通行は田と道路の境界がわからない中でした。翌日の雪原上には雪玉とはさ木に着的い雪、この景色は最近見たことがありません。

最後に春の俳句を一句  
「若あゆのいきをも制す花いかた」

趣味悠々で、講師が爺まどかさん、萩尾みどりさんの講座を見ながら春の冷たい高校のプールを思い出し詠んだ句です。



上段左が平山さん